
消しゴム人形

柊 六花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

消しゴム人形

【Nコード】

N2717S

【作者名】

柊 六花

【あらすじ】

エリちゃんが大切にしていた消しゴムの人形を壊してしまったヒデは。子供の頃の友情と淡い恋心を描いたショート・ショート。

ヒデは部屋の隅で膝を抱え、溜め息をついた。

エリちゃんの人形を、壊してしまったのだ。

人形といつても、二つの消しゴムを針金でくっつけて、油性ペンで顔を描いたものだけだ。

「大嫌いって……嫌われちゃったよ」

ヒデは再度溜め息をつく。

「だいたいタケシのやつが……」

学校の帰り、エリちゃんの家へ寄って三人で遊んでいた。

エリちゃんお手製の人形を我先に見ようと取り合った結果、人形はバラけてただのボロ消しゴムになってしまった。

いつも笑顔のエリちゃんの顔がみるみる泣き顔に変わり、ヒデもタケシもどうしていいのか分からず、おろおろするばかりだった。

「あゝもう！」

ヒデは立ち上がった。

エリちゃんに謝らなきゃ。

机の上の筆箱を開けて、消しゴムを取り出す。勉強嫌いが幸を成して、殆ど使われていない四角い消しゴム。

赤い油性ペンで蝶ネクタイを書いてみた。

あとは顔……。

引き出しをあさってみるが、消しゴムは見当たらない。

蝶ネクタイの描かれた消しゴムを握り締め、貯金箱から最後の硬貨を取り出すと、ヒデは家を後にした。

夏の空は眩しく、二階建て家屋が密集する住宅街に蝉の鳴き声が響いている。

ヒデは目を細め、坂道を一気に駆け下りた。

交差点に差し掛かると、見覚えのある背中を見つけた。

「タ、タケシ……?」

「んあ、ヒデ?!」

タケシは振り返るなり、驚きの声をあげた。

「な、何してんだ?」

「タケシこそ」

「お、俺はちよつと用があつて」

「俺も……」

二人は気まずそうに俯く。

「……ヒデ、何持つてんだ?」

タケシが、硬く閉じられたヒデの拳に気付く。

「お、お前こそ」

見ると、タケシの拳も強く握られている。

お互いの視線を受け、二人はゆっくりと拳を開いた。

ヒデの手には、赤い蝶ネクタイの描かれた四角い消しゴム。タケ

シの手には、顔の描かれたまんまる消しゴム。

二人は顔を見合わせて笑った。

「ヒデ、今日の友は明日の敵な」

「何それ?」

「バーカ、分かんないんだよ」

信号が青に変わり、二人は肩を並べて交差点を渡った。

【終】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2717s/>

消しゴム人形

2011年11月13日20時47分発行